

# 都市史学会大会 2022 平泉

2022年12月24日(土) + 25日(日)

平泉町学習交流施設エピカ・多目的ホール + Zoomミーティング

# の みちのく 都市文化 再考

平泉藤原氏の時代(十一・十二世紀)の平泉の寺院建築や美術の先進性はよく知られたところであるが、発掘調査や史料検討の進展に伴って、平泉において明確な寝殿造住宅が欠

如し、掘立柱建物の技術に規格性が見られないこと、平安京を真似たとされる都市プランは部分的に検出されるものの土塁や堀などの土木構造が目立つなど、平泉文化には一見、矛盾するかのよう側面が見いだされるようになった。このような現象を都と地方の対比と見るのではなく、東北地方もしくは東日本の社会の歴史的・地域的特性として位置付けるべきもののように思われる。

都市平泉は、平泉藤原氏の固有の生活や思想に基盤を持つのか、都の貴族や鎌倉武士との情報交流から生まれた結果なのか。あるいはその複合体として理解すべきものなのか。このシンポジウムでは主として、建築と都市に焦点を当てて平泉を再考し、中世前期の列島の都市・建築文化の特質を浮き彫りにしたい。

## ❖ 第一日(24日) 15時↓17時

都市史学会総会(会員限定)【14時55分からアクセス可】

研究発表 司会||中尾俊介(東京大学)【15時55分からアクセス可】

## ❖ 第二日(25日) 10時↓17時30分

記念講演【9時55分からアクセス可】

都市平泉研究——中世都市研究における意義と可能性——齊藤利男(弘前大学名誉教授)

司会||八重樫忠郎(岩手大学平泉文化研究センター)

シンポジウム||みちのくの都市文化再考——平泉の建築と都市を中心に——【12時55分からアクセス可】

司会||岸泰子(京都府立大学/建築) + 山岸常人(京都大学名誉教授/建築)

趣旨説明||山岸常人

平泉を構成する遺構——寺院・道路・建物——八重樫忠郎(考古)

平泉の掘立柱建物の建築的特質——箱崎和久(奈良文化財研究所/建築)

平安時代末期の住宅建築と儀礼——藤田盟児(奈良女子大学/建築)

古代の国府・城柵から平泉への展開——吉田 敏(山形県立米沢女子短期大学/日本古代)

コメント||高橋慎一郎(東京大学史料編纂所/日本中世) + 長谷川敬(慶應義塾大学/西洋古代)

※コメント後、全体ディスカッションを行います。



参加費(両日共通、オンラインにて事前支払) = 会員1,000円 / 非会員1,500円 / 学生1,000円

申し込み = 都市史学会ウェブサイトより <https://suth.jp/event/convention2022/>

お問い合わせ = 2022年度都市史学会大会実行委員会 [convention2022@suth.jp](mailto:convention2022@suth.jp)

会場アクセス = JR東北本線平泉駅より徒歩3分(〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉志羅山25-1)

※会場では検温やマスク着用などにご協力をお願いいたします。今後の感染症拡大状況によりオンラインのみの開催となる可能性がございます(ウェブサイト等でお知らせします)。



都市史学会  
Society of Urban & Territorial History